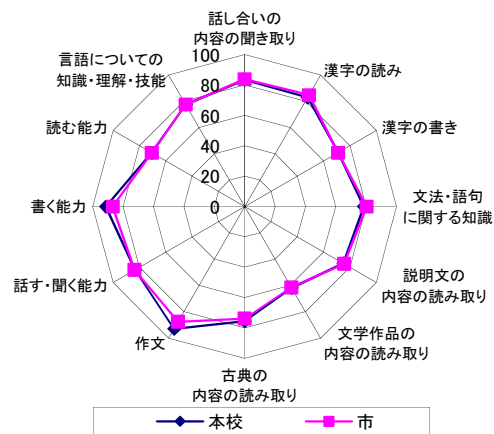


宇都宮市立国本中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	83.4	83.7
	漢字の読み	82.9	84.7
	漢字の書き	71.0	70.9
	文法・語句に関する知識	78.5	80.3
	説明文の内容の読み取り	75.0	75.5
	文学作品の内容の読み取り	61.9	61.6
	古典の内容の読み取り	75.5	73.9
	作文	93.0	87.7
観点別	話す・聞く能力	83.4	83.7
	書く能力	91.3	86.9
	読む能力	70.7	70.6
	言語についての知識・理解・技能	77.4	77.6



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	・平均正答率は市の平均に比べ0.3%低い。問題の中では、聞き手に理解してもらうための話し合いの工夫の聞き取りが5.3%下回っていた。しかし、その他の話の内容を正確に聞き取ることや、話し合いの展開を捉える問題では、市の平均を上回った。	・聞き取り問題で要点を聞き取り、メモする能力を伸ばしていく。今後も授業の中で聞き取り問題を取り入れていく。また、普段の授業の中でも、発表や教師の指示などを聞く態度を指導していきたい。
漢字	・漢字の読みの平均正答率は市の平均に比べ1.8%低い。また、書きの平均正答率は市の平均に比べ0.1%高い。最も正答率の低い問題は読みの「欺(あざむ)く」であり、書きは「た(垂)れる」であった。また、読みの「豪華(ごうか)」の校内正答率は100%だった。	・引き続き新出漢字の練習を各単元に合わせて行っていく。また、既習漢字の定着を図るために、反復練習を行う。
文法・語句に関する知識	・平均正答率は市の平均に比べ1.8%低い。最も正答率の低い問題は慣用句であり、正答率の高い問題は文の構造についての問題だった。	・反復練習を行い、定着を図っていく。また、文法に関して苦手意識がある生徒も多く、規則性や文法の特徴を押さえ、日常生活や作文を書く時に正しい表現ができるということも含め指導していきたい。
説明文の内容の読み取り	・平均正答率は市の平均に比べ0.5%低い。中でも論の展開の仕方を問う問題の正答率が低かった。要旨を捉える問題については市の平均を上回っていた。	・各段落の内容の読み取りや要旨のまとめ方については今後も継続して行っていく。加えて、論の展開の工夫について読み解くポイントを押さえる活動を設けていく。具体的には、意味段落がどの様な役割をしているのかを考える活動を取り入れる。
文学作品の内容の読み取り	・平均正答率は市の平均に比べ0.3%高い。特に正答率の高かった問題は、場面の様子を捉える問題や表現の仕方に注意して文章を読む問題であった。	・場面の展開に即して登場人物の心情を読み解くことを中心に行っていく。本文の描写から、心情の変化が読み取れる表現を探していけるような活動を設けていく。
古典の内容の読み取り	・平均正答率は市の平均に比べ1.6%高い。特に古典の表現についての問題で正答率が高く、古文の基本的知識が身につけていることが伺える。	・古典の苦手意識をなくすために、教科書の古典以外にもわかりやすい古典やおもしろさを感じられるような作品を通して、基礎的・基本的な知識の定着を図っていく。
作文	・平均正答率は市の平均に比べ5.3%高い。文章の構成や論の展開を工夫して自分の考えを書くことができていることが伺える。	・課題作文を書く機会を今後も定期的に設けていく。また、その場で添削することにより、見直しの機会や構成の確認ができるため、国数英期間でのT2の活用を生かしていく。